

日本学術会議 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会（第12回）
議事要旨

日 時 2013年1月8日（火）10:00-12:00

場 所 日本学術会議 5-A（1）会議室（5階）

出席者 荒川委員長、松沢副委員長、長野幹事、西尾幹事、岩本委員、岡田委員、永原委員
陪 席 文部科学省研究振興局学術機関課（加藤様）、日本学術会議事務局（石原参事官、中島上席学術調査員 他）

配布資料

- (1) 資料1 前回議事要旨（案）
- (2) 参考1 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会（委員名簿）
- (3) 参考2 公開シンポジウム「学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン」リーフレット

議題

1) 前回議事要旨(案)の確認

前回議事要旨の確認を行い、原案通りに了承された。

2) 学術研究領域について

出席委員および事務局から、前回の本分科会以降の学術研究領域の更新状況について持ちあわせている情報を提供した。更新事項の主なものは次の通りである。

- ・ 第一部については、前回の段階では未提出であった経営学委員会から学術研究領域（10領域）の提案があった。
- ・ 第二部においては、山本正幸部長より（例えば、薬学委員会の学術研究領域名の記述の長さ等に関することも含めて）、再考を促すメールが送信される予定である。
- ・ 第三部については、前回の段階では未提出であった環境学委員会から学術研究領域（融合4領域を含む13領域）の提案があった。また、同じく前回の段階では未提出であった土木工学・建築学委員会から学術研究領域（10領域）の提案があった。

これらの新たに提案された学術研究領域も含めて、学術研究領域全般にわたる議論を行い、主に以下のような方針で更新をすることとした。

- ・ 環境学委員会から提案された融合領域（4領域）については、第一部以外では融合領域を設けないという方針を踏襲し、次のような対応をすることとした。融合領域で提案されている「放射線・化学物質健康影響科学」については、環境科学委員会としての10番目の学術研究領域とする。それ以外の融合領域として提案された3領域については、各領域が非常に広範な内容を含むことから、提案計画の具体的な内容によって既存の学術研究領域において合致するもの（例えば、土木工学・建築学委員会等の領域）を選択するようにして、基本的には融合領域として残さないこととした。
- ・ 第一部の人文・社会科学融合領域に関して、「アジアの学術交流」をはじめとする4領域名が、学術研究領域名として適当かどうかの議論を行った。学術研究領域名としては、他の委員会における領域名とは概念的に異なる面も多分にあり、もし、現行の案を採用する場合には、特に、第一部の先頭（つまり、三つの部の先頭）に記載される領域名となり、学術研究領域の考え方に対して偏った見方を与える可能性も懸念さ

れる。そこで、第一部におけるこれまでの議論を活かす観点から、現行の案における学術研究領域の7領域名をそのまま学術研究小領域に移し、学術研究領域名としては「人文・社会科学融合」とすることとした。また、この融合領域名を第一部の最後に移し、上記の懸念に対処することとした。

- ・松沢副委員長より、第一部の心理学・教育学委員会の学術研究領域として提案されている「融合的社会脳」を人文・社会科学融合領域に移すことを検討してほしいとの依頼が該当分野の研究者からあった旨の報告があった。本件については、人文・社会科学融合領域について上記のような変更を行っている段階でもあり、現行のままにしておくこととした。
- ・資料2において、学術研究領域名に付随して「括弧書き」、あるいは「但し書き」されている文言については、今後は削除するか備考欄に移すこととした。

なお、学術研究領域名については、今後も改訂を重ね、次回の1月21日開催予定の本分科会には最終案を決定することとした。

3) マスタープラン策定における審査・評価の方法について

荒川委員長から審査・評価の方法について説明があり、その後協議を行った。文言などの細かな修正・加筆等は、次回の1月21日開催予定の本分科会までに委員全員で行うこととし、重要な事項としては次のような修正をすることとした。

- ・分野別評価委員会委員長は、その責任において微調整を行った後、分野別評価委員会案を策定することとした。
- ・分野別評価委員会の策定に基づき、本分科会は、諸バランスを考慮して、学術大型研究計画を決定することとした。
- ・分野別評価委員会委員は、各提案について総合評価を5段階で行うこととした。
- ・予算化については、要求の全額が予算化されているものではなく、「一部予算化」されていることから、それを反映した記述にする。
- ・審査小委員会の策定に基づき、本分科会は、最終的に諸バランスを考慮して、重点大型研究計画を決定することとした。
- ・分野別採択可能最大数について
分野別採択可能最大数に関する荒川委員長の説明後に、特に大きな意義をもつパラメータ n 、 K (分野別最低採択件数) の値について議論を行った。その結果、 K の値については「0も含む」こととした。つまり、分野別の採択数が0の場合もあり得ることとした。

4) 学術大型研究計画の提案の募集要項について

荒川委員長から募集の要項について説明があり、その後協議を行った。内容についての細かな修正・加筆等は、次回の1月21日開催予定の本分科会までに委員全員で行うこととし、概要的な議論を行った。その過程で、次のような修正を行うこととした。

- ・カテゴリーA、カテゴリーBについては、2010 マスタープラン、2011 マスタープランにおけるカテゴリー分類と混同することより、カテゴリー1、カテゴリー2と名付けることとした。
- ・現在実施中の学術大型研究については、学術大型研究計画に相応しいと判断されれば、新規の学術大型研究計画に「併記」するのでなく、「別表」として記載することとした。また、本カテゴリーに属す学術大型研究の数は、第22期学術の大型施設計画・大規模

研究計画に関するマスタープラン策定の方針 2(2)(b)④における「総数 200 件程度」の外数とすることとした。

- ・ 募集の開始日を 2013 年 2 月 15 日（金）とすることとした。

5) 公募時における WEB 入力ページについて

応募する場合は、WEB 入力ページを用いて行うが、そのページのフォーマットについて荒川委員長より説明があった。このフォーマットについては、ワードファイルを本分科会委員に送りコメントを求めることとした。

6) 公開シンポジウム「学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン」について

参考 2 の資料をもとに、公開シンポジウムについて荒川委員長から説明があり、会員・連携会員、学協会、研究機関に案内を送るように事務局に依頼がなされた。

7) 今後の本委員会の開催予定について

次回の本委員会は、上記公開シンポジウム開催日の 2013 年 1 月 21 日に、シンポジウム終了後に開催する。公募が開始される前の最後の本委員会を 2013 年 2 月 8 日の午前 10 時から午後 12 時 30 分まで開催することとした。上記の WEB 入力ページの最終確定をこの 2 月 8 日の委員会で行うこととした。

以上